

●第1回審議会 委員からの意見 「第3次加賀市観光戦略プラン」

審議会での意見	審議会での回答内容	プランへの反映内容
<p>ウィズコロナ、アフターコロナの中で、温泉地の魅力度が重視されており、温泉地の磨き上げに主軸を置いて取り組んでいただきたい。新幹線開業に向けて、加賀温泉郷の魅力発信のために、旅行商品の開発、発信に取り組んでいただきたい。（和田委員）</p>	<p>加賀市には多くの素材があるが、観光商品に関しては金沢から遅れていると感じている。開業まで1年半となるので、スピード感をもって地域資源の観光商品化に努め、JR等でPR、販売していただけるよう取り組んでいきたい。（観光交流課長）</p>	<p>第3次加賀市観光戦略プランに基づき、スピード感を持って取り組みます。</p>
<p>物価が上がり、人がいなくなり、エネルギー価格が高くなる中で、今までと同じことをやっているだけでは持続可能な経済発展は不可能。プランディングなど付加価値を上げることで、数に頼らない、実のある営業ができる。 「加賀」という言葉は、外部から見ると「金沢」と一緒にみられがちである。プランディングするうえで、「加賀」なのか「金沢と一体」なのか、整理していくことも大事。情報発信の点で、金沢開業の際には、JRとのタイアップが効いたと考えている。魅力づくりと情報発信は一体として進めるもの。全国発信となると莫大な費用、エネルギーが必要になるため、JRとの連携が重要。 加賀市には個々としての多くの魅力があるが、全体としては何が魅力なのか、整理していく必要がある。（新滝委員）</p>	<p>開業後にJRで大規模なキャンペーンを実施することは聞いている。それも含めて、開業前にJR、航空会社など交通会社との連携は強化していく必要がある。 開業により東京とつながるため、東京向けの情報発信をどうしていくか詰めていきたい。 「加賀百万石」はどうしても金沢をイメージされがちであり、南加賀の「加賀」をどうしていくか。磨き上げやプランディングをどこが担うかという点で、DMO（観光交流機構）の機能を強化することが必要。（産業振興部長）</p>	<p>P16「施策15 集客に向けた営業強化」にJRや航空会社との連携強化を追記し取り組みます。</p>
<p>今までは、駅についてからマイクロバスなどで宿泊先に直行していた。回遊性を出すのであれば、加賀温泉駅に着いてから、あるいは車で来た人が、どうすれば効率的に回遊することができるのか、情報発信をすべき。（佐藤委員）</p>	<p>手ぶら観光の推進として、観光情報センターで手荷物を預かり、観光する間に手荷物が宿泊先に届く、というサービスを目指している。観光情報センターでは、レンタサイクルの問い合わせが多く、加賀温泉駅から各温泉街で乗り捨てできる仕組みを導入できないか考えている。情報発信については、スマートフォンで検索される方も多いので、魅力的なポイントを、スマホ情報、SNSで発信していけたらよい。（観光交流課長）</p>	<p>加賀市観光情報センターホームページで「おすすめの過ごし方」として紹介しているモデルコースの充実を図ります。</p>
<p>マーケティングの観点として、地域や年齢層など、どこをターゲットにするか、JRなどと戦略を立てることが重要。（五味委員）</p>	<p>どういう風に訴求していくかはまだまだ足りない部分。早急に詰めていきたい。（産業振興部長）</p>	<p>様々な事業者と意見交換するなど連携を強化し、マーケティングに基づく事業展開を図ります。</p>
<p>実際に足を運んだ人が本当に満足したか、再訪したいかなど、顧客の意見を見えるようにすると、次の戦略につながる。開業時の集客を持続させるために、開業前にいろいろな仕組み、関係をつくり、魅力づくりにつなげていきたい。（新滝委員）</p>	<p>コロナ前は施設の出入り口でアンケートを実施していたが、誤差があり精度が低かったため、現在はじゃらんの宿泊旅行調査（小松、辰口も含まれる）を基準にしている。じゃらんで加賀市だけの数字を今後取れないか、現在交渉中。母数も大きくなり、精度も上がるため、じゃらんだけでなく、楽天なども含めて数字を集めて継続的にみていきたい。（観光交流課長）</p>	<p>満足度や再来訪意向を含む各種統計データのとり方について、研究を進めます。</p>
<p>（閉会后）P5でSWOT分析を行っているが、それを踏まえた対策を整理し、プランに掲載すると良い。（五味委員）</p>	<p>（閉会后）内容を確認し、追記したい。（観光交流課長）</p>	<p>P6に追記しました。</p>